

# Jトラストが武富士支援

## 「ロプロ」に吸収合併

### A&P、資金調達できず撤退

金融・不動産・ITなどを手がけるJトラストグループが会社更生手続き中の武富士を傘下に収めることになった。韓国の貸金業A&Pファイナンシャル(A&P)が昨年末までに武富士の買収資金を払い込むことができず、スポンサーから撤退。Jトラストが武富士管財人との間で昨年12月28日、新たな支援先になる契約を結んだ。A&Pは円高ウォン安で自己資金の拠出が膨らんだほか、国内金融機関からの借り入れも難航。会社分割も予定日を延期するなどしたが、土壇場で買収を断念。Jトラストは3月に買収を実行、武富士を傘下の貸金業「ロプロ」に吸収合併する。

## 全社員の雇用確保 70億円拠出

### 武富士ブランド継続は精査

Jトラストは3月1日までに約252億円で武富士の消費者金融事業部門を買い取り、連結子会社のロプロを承継会社として会社分割(吸収合併)させて事業継続を図る。

関係筋によれば、「武富士の融資残高は約380億円。そのうち70%が正常債権と思われる。252億円という額は妥当な線ではないか」と指摘している。

Jトラストは、今回の買収資金を自己資金と借り入れて賄う予定だが、同社の藤澤信義社長が十分な資金として70億円を出す。

武富士の従業員は470人で、現在300人程度に減少している

などはJトラスト側が武富士へ事業継続のために数十人規模の社員を送り込んでおり、「武富士の

ブランドを継続使用するかどうかも含めて現在、精査している」(広報IR部)という。

武富士は昨年3月末までに再建支援先を決める日程で、スポンサー候補を絞り込み、サーベラス、TPGの投資ファンド2社、A&P、Jトラストの計4社が残りに、A&Pが4月11日に交渉権を得たことをアナウンスした。しかしJトラストはその直前、スポンサーの選定過程が不透明だとし、同社の応札価格

(310億円)まで公表し、撤退した経緯がある。

Jトラストグループは1977年に大阪で設立された貸金業「光商事」(91年「イッコー」に改称)が発祥。その後、同社のグループ会社などがクレディア、日栄(現ロプロ)をはじめ、アイフル、プロミスの消費者金融子会社などを次々に買収している。貸金業法で経営が行き詰った業者の「駆け込み寺」にもなっていた。



よつやく再建が見えた武富士(写真は東京・西新宿の本社ビル)

武富士の従業員は470人で、現在300人程度に減少している。約20の支店や自動契約機、ATM